



県内の大学から研究者の皆さんをパネリストに迎えて、凍み餅を中心に、地域の文化が多角的に語られました。

「凍み餅」の文化とおいしさを発信

2月23日、土湯温泉YUMORI(福島市)で開かれた「阿武隈高地の凍み餅を【食べる】シンポジウム」。冬の寒さを利用して作られる伝統の保存食・凍み餅の魅力を広く知ってもらおうと、「飯館までい文化事業団」が企画しました。研究者を迎えたシンポジウムの他、凍み餅を使った村民食堂やカフェ、ワークショップなどが行われ、県内外から訪れた約100人が凍み餅との出会いを楽しみました。また、阿武隈地域の文化を紹介する中で、小宮の田植え踊りも披露されました。



高橋トク子さん(深谷)を講師に凍み餅の藁編み教室を開催。販売コーナーでは村民が生産する凍み餅の販売も。



詳しい情報は溝口の先生監修のこちらのサイトで▼



道の駅で期間限定「ハチ公そば」

忠犬ハチ公のオブジェが設置されている道の駅までい館に『ハチ公そば』が登場。ハチの飼い主・上野博士が創設した東京大学農業工学科の卒業生で同大教授の溝口勝さん(写真左)と、村民の帰村を待つ存在として村に贈られたハチ公オブジェの保存・継承を行う塚越栄光さん(同右/草野)が企画しました。いいたて愚真会の手打ち蕎麦に、子犬のハチを可愛がる上野博士をイメージした蒲鉾、ハチの好物だったとされる焼き鳥などをトッピング。提供は3月末日までの予定です。(レストランは施設メンテナンスで3月16日まで休止中。再開後にぜひご賞味を)。



心の復興コンサートを開催

2月3日、「ふるさと飯館で“自分らしく”生きよう会」が主催する『心の復興～絆を紡ぐコンサート～』が交流センター「ふれ愛館」で行われました。アコーディオニストの秦コータローさん(写真左)、シンガーソングライターの草野俊之介さん(写真中央)、北川たつやさん(写真右)の3人のゲストが、優しい歌声と音色で会場を魅了しました。バラードやポップな曲など計13曲を披露し、ユーモアあふれるトークを交えながら、観客との交流も深めていました。



「ラカッセ」が特製弁当を出張販売

1月26日、福島相双復興推進機構と福島復興局(共に福島市)で、「田舎レストラン ラカッセ」が特製弁当を出張販売しました。11月に経済産業省(東京都千代田区)で販売したのに続く取り組みです。「味噌漬けローストビーフ」「ナツハゼを使った混ぜご飯」など、村の特産品を中心に県内の食材を盛り込んだ約70個の特製弁当は、好評のうちに完売しました。



県立博物館「いいたてミュージアム」

福島県立博物館(会津若松市)のエントランスホールで、3月31日まで、ポイント展『いいたてミュージアム』が開催されています。展示されているコレクションは、避難当時、「いいたてまでの会」が、エピソードと共に個人から収集した品々。全国各地を巡回して福島の現状を伝え、平成30年、会の活動休止に伴い博物館に寄贈されました。

今展では、コレクションが内包する“暮らしの記憶”を呼び覚まし、プロジェクトの意義を再考します。



関連イベント(申込不要・直接来場を)
美術講座「未来の記憶のために」(受講無料)
3月10日(日)午後1時30分から
講師 港千尋さん
(写真家・著述家・多摩美術大学教授)



「まごころ」で送る冬のマルシェ

2月24日、「もりの駅まごころ」で『ワクワクあったかマルシェ』が開催されました。実行委員会の主催による2回目のマルシェ。生産者が店頭立ち、来場者と交流しながら自慢の逸品を販売しました。村内はもとより村外からもたくさんの人が来場。企画の中心の1人、鮎川邦夫さん(小宮)は「天気がよくてよかったね」と活気に満ちた会場を見渡しました。工夫を凝らしたホカホカのメニューも多彩に登場し、冬ならではの素敵なマルシェに、おいしい笑顔が広がりました。

